

仙台市におけるピアサポートに関連する事業について

I 精神障害者ピアカウンセリング事業

1 事業概要

委託先	特定非営利活動法人 仙台市精神保健福祉団体連絡協議会
令和2年度決算額	¥358,881

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ピアカウンセリング講座</u>：ピアカウンセリングの理解や、適切な自己表現と他者理解、自己肯定感や自信の回復、当事者同士の仲間づくりを目的として、ピアカウンセリングに関心のある当事者を対象に、ピアカウンセリングを体験する講座を行う。 ・ <u>セルフヘルプグループ育成支援事業</u>：当事者活動の維持・発展や精神疾患・精神障害に対する誤解・偏見の解消に資するため、主体的・積極的な当事者活動団体を支援し、また周知することを目的に当事者活動団体への活動支援金の提供や、ピアトークショー等での講演活動・報告集の配布等による周知を行う。 ・ <u>ピアトークショー</u>：ピアカウンセリングと当事者活動の活動報告等を通じて、精神疾患・精神障害の正しい理解や当事者活動についての普及啓発・情報提供を行い、当事者同士及び当事者と精神保健に関心のある方々との交流を目的とする。また、当事者以外の精神保健医療福祉従事者、ボランティア、学生等の方々が当事者活動を知る機会となることを目的として、精神疾患・精神障害やピアカウンセリングに関する講演や、等当事者活動団体のPR等を行う。

2 実績

(1) ピアカウンセリング講座

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
延参加人数	30	33	35
実参加人数	18	21	23

(2) セルフヘルプグループ育成支援事業

① 助成金の交付

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
応募団体数	4	4	2
交付団体数	4	4	2

② 当事者活動立ち上げ等に関する相談

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
相談件数	0	0	1

(3) ピアトークショー

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
当事者	16	15	12
支援者	4	5	3
学生	0	0	0
ボランティア	0	0	0
その他	0	0	0
参加者数合計	20	20	15

(4) その他の活動

① 関係機関への取組みの 広報	ピアカウンセリング講座（年3回）、ピアトークショー（年1回）の開催1か月前に、仙台市内の事業所及び医機関、公的機関（仙台市福祉プラザ、シルバーセンター、市民活動サポートセンター）において開催チラシを配布する。
② 当事者間でのピアサポートに関する情報交換・共有	ピアカウンセリング講座及びピアトークショーの開催にあたり、2ヶ月1回当事者同士で打ち合わせや情報共有する機会を設けている。主に、事業実施に関する話し合いだが、ピアサポートに関する全国的な動きや当事者個々のピアサポーターに関する考え方についても共有する。

3 事業が「ピアサポート」に及ぼす効果や影響等

ピアカウンセリング事業は、精神障害者当事者が実行委員として企画・運営を行う。ピアカウンセリング講座では、精神に障害を抱えている方々の出会いの場であり、関係性を深め、安心できる場となっている。ピアサポートを仕事にすることにより、当事者同士の想いや考えを分かち合うという、ピアサポート本来の精神に重きを置いていることが、参加者の安心につながり、自分の気持ちを素直に表現できることにつながっている。

Ⅱ 障害者地域活動推進センター クリアリングハウス仙台

1 事業概要

委託先	特定非営利活動法人 雲母倶楽部
令和2年度決算額	¥13,021,068

内容

当事者活動団体の支援を行うとともに医療・福祉及び地域の社会基盤との連携強化のための調整、地域住民やボランティアの育成、障害に対する理解促進を図るための普及啓発活動を実施する。

2 実績

(1) 当事者活動支援

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
支援団体数	12	12	15
延相談件数	72	63	59

相談内容

[当事者支援]

- ・当事者活動団体に関する情報提供
- ・定例会等への同行

[団体支援]

- ・活動状況やイベント等の情報収集
- ・定例会やイベント等の情報発信
- ・当事者活動団体の運営の支援

(2) 地域交流室

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実利用者数	47	56	27
延利用者数	725	642	834

(3) 地域交流（料理教室、夏祭り、クリスマス会等のイベント開催）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実施回数	21	19	0
延参加者数	135	184	0
うち地域住民の 延参加者数	28	39	0

(4) その他の活動

<p>① 当事者活動団体 実態調査</p>	<p>○目的：各団体の現状を把握することで抱える課題等を整理し、今後の当事者活動支援の展開に反映させる。</p> <p>○内容： <ul style="list-style-type: none"> ・基本情報の把握(活動年数、活動地域、活動頻度、メンバー数・構成、運営費等) ・活動状況の把握(運営上苦労している点等) </p> <p>○結果：運営の現状を把握し課題に感じていることとして、「周知活動が困難」「新規メンバーの確保が困難」「後継者育成が困難」が上位にあることが示され、当事者活動の衰退が懸念される事態であることが明らかになった。</p>
<p>② 当事者活動団体に関する情報発信</p>	<p>○ホームページの運営：団体紹介、定例会やイベント等の案内</p> <p>○ニューズレターの発行：団体紹介、定例会やイベント等の案内・報告</p>
<p>③ 意見交換会の開催</p>	<p>○目的：団体同士で活動の現状や今後の在り方等について率直な意見交換を行う。話し合いを積み重ねながら、将来的には団体が主体となり、自分たちに必要な取り組みを企画・運営していくようにサポートする。</p> <p>○開催頻度：平成 30 年度よりスタートし、年 1 回の開催。</p> <p>○参加者：参加団体 8 団体程度。参加人数平均 15 名程度。</p> <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回 当事者活動全体の現状・課題の共有 団体同士の顔合わせ ・第 2 回 団体同士での活動紹介 ・第 3 回 効果的な情報発信に関する検討 ・第 4 回 支援機関に当事者団体に関するアンケート調査を実施。 当事者団体に関する相談の現状等踏まえ、情報発信の方策について検討
<p>④先進地視察</p>	<p>○目的：事業所運営強化のため</p> <p>○視察先：特定非営利活動法人 ひょうごセルフヘルプ支援センター</p> <p>○結果：事業への反映は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体に関する情報収集、発信 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 団体の活動拠点となる施設へ情報収集協力の依頼 ➢ 当事者団体定例会の出席 ➢ 当事業所ホームページの充実 ➢ 団体情報にアクセスしやすくするためのツールの検討（情報を取りまとめた冊子の発行等） ・当事業所の周知 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 関係機関へ当事業所の説明、リーフレット設置の依頼 ➢ ホームページの運営 ➢ ニューズレターの発行 ➢ 当事者団体定例会の出席 ・当事者活動支援の展開 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 当事者活動の実態や課題の把握 ➢ 当事者活動全体の活性化を目的とした交流会の開催

3 事業が「ピアサポート」に及ぼす効果や影響等

- ・当事者活動が市民に広く周知されることでピアサポートが社会的に認知される。
- ・当事者活動が活性化することで当事者の活動の場が増える。

Ⅲ ピア相談員（ピアサポーター）雇用促進事業

1 事業概要

委託先	特定非営利活動法人 仙台市精神保健福祉団体連絡協議会
令和2年度決算額	¥1,191,368

内容
自らの疾病体験を踏まえて、ピアサポーターとして活動しようと希望する精神障害者に対して、相談支援事業所等での実習機会を提供し、自らのピアサポーターとしての適性を見極めるとともに、相談支援事業所等がピアサポーターを雇用し活用するための機械や必要な体制等について検証する。

2 実績

(1) 研修・実習修了者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
修了者数	4	5	3

(2) 研修・実習修了後の受講者の進路

			平成30年度	令和元年度	令和2年度
ピアサポーターとして活動	雇用	常勤	0	0	0
		非常勤	0	0	0
	非雇用	謝礼等対価あり	3	3	2
		無償	0	0	0
ピアサポーターとして活動していない			1	2	1
不明			0	0	0

(3) その他の活動

① 支援者向け研修	<p>○目的：ピアサポーターの意義や有効性を支援者に理解してもらう</p> <p>○開催頻度：年1回</p> <p>○対象者：区保健福祉センター職員、相談支援事業所職員、障害者福祉サービス事業所、その他関係機関職員、ピアサポーターに関心ある当事者</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度 テーマ 「ピアサポーターと協働するということは」 講師 さが恵比寿メンタルクリニック谷口研一郎先生 参加人数 24名（支援者8名 当事者15名） 令和元年度 テーマ 「精神障害者が支援機関で働くことの意味と効果」 講師 特定非営利活動法人さざなみ会 シャロームの家 施設長 当事者スタッフ3名 参加者 26名（支援者6名 当事者20名） 令和2年度 テーマ 「仙台及び全国のピアサポーターの現状と課題」 ファシリテーター 聖学院大学 相川章子教授 話題提供 仙台のピアサポーター研修と実習を終了した3名 参加人数 42名（支援者22名 当事者20名）
② ピアサポートの集い	<p>○目的：ピアサポーター研修及び実習修了者が継続した繋がりの中で、お互い持つピアサポート情報の共有や新たな取り組みの発掘（イベント、勉強会の話し合い）、心の拠り所</p> <p>○開催頻度：月1回（第3水曜）17：30～19：00</p> <p>○平均参加人数：8名（当事者6名 支援者2名）</p>

<p>③ ピアサポートに関連するイベント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○目的：ピアサポートの集いで集まって話し合ったことを形にし、実施することで、ピアサポート研修及び実習修了者やピアサポートに関心ある方々の結束強化と自信に繋げる。 ○開催頻度：年1回 ○対象者：誰でも参加可能 ○平均参加人数：40名 ○内容：平成30年から令和2年にかけて、東京ソテリアとイタリアボローニャの精神保健局前局長イヴォンヌ・ドネガーニ氏との交流イベントを実施。令和4年からは、ピアサポーター研修修了者からの熱い要望により、新たに2ヶ月に1回の勉強会を開催予定。
--------------------------	---

3 事業が「ピアサポート」に及ぼす効果や影響等

残念ながら、ピアサポーター研修及び実習修了者で雇用される形でピアサポーターとして活動している者は非常に少ないのが現状である。漠然としながらも、ピアサポーターに関心を持ち研修や実習を希望する当事者に比し、ピアサポーター雇用に関心を持つ事業所が非常に少ない。

しかしながら、研修及び実習終了後に集まる場やイベント開催の機会をつくることで、参加者同士が深いつながりができていることは事実である。雇用という形でなくとも、当事者同士が集まり、何かに取り組むことにより、やりがいを感じたり、自信の回復につながっている。

IV 精神障害者地域社会交流促進事業

1 事業概要

委託先	学校法人梅檀学園 東北福祉大学
令和2年度決算額	¥5,591,679

内容

ノーマライゼーションを阻む強固な負のイメージを払拭し、精神障害者がそれぞれ質の高い生活を送る環境を整えるため、スピーカーズビューローを活用し、精神疾患の正しい理解や精神障害者に対する適正な普及啓発活動を実践することを目的とする。

2 実績

(1) 主な対象者別講演回数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	計
一般市民	5	2	0	7
地域生活上のキーパーソン (雇用主・家主等)	0	0	0	0
精神保健福祉関係者	0	0	0	0
地域活動関係者 (町内会・民生委員児童委員等)	0	0	0	0
学校教育関係者	14	13	4	31
当事者	2	3	3	8
当事者の家族	5	3	1	9
マスメディア	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
計	26	21	8	55

(2) 聴講者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講演聴講者数	1,441	743	323

(3) スピーカー登録者

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講演登録者数	18	20	18
準講演登録者数	18	18	17
新規登録者数	0	2	2
登録解除者数	0	0	5

(4) その他の活動

① 機関紙の発行・配布	3 ヶ月に 1 回機関紙「仙台 SB 通信-こころのヴォイス」を発行。毎回 140～160 部仙台市内の病院および相談支援事業所、精神保健福祉団体を中心に配布している。
② 講演動画の作成	令和 2 年度に講演動画を 2 巻作成し、DVD の貸与およびせんだい Tube へ掲載した。令和 3 年 12 月 1 日時点で DVD は 1 団体に貸し出し、せんだい Tube の視聴回数は 2 作品合わせて 1,054 回である。
③ 市民公開フォーラム	仙台市民への精神保健に関する普及啓発を目的として、時事的なテーマや精神保健に関する情報を還元することを意図として開催。開催時期は不定期ではあるが 1～2 年に 1 度開催し、50 人程度の参加がある。

3 事業が「ピアサポート」に及ぼす効果や影響等

- ・打ち合わせやレクリエーションを通じて、スピーカー同士の連帯や主体性の獲得につながる。
- ・当事者に向けた講演を通じて、自身の疾病体験を振り返り、リカバリーに向けた意欲を喚起する機会となる。
- ・当事者による講演活動等の様子を身近で知ることにより、自身の活動意欲の上昇や生きがいの獲得がみられる。

IV ピアスタッフ雇用

1 事業概要

実施主体	健康福祉局障害者支援課
令和2年度決算額	ピアスタッフ2名分の人件費

内容

精神障害者の地域移行・地域定着の推進を目的に、精神障害当事者をピアスタッフとして雇用し、自身のリカバリー体験を用いて、精神科病院の長期入院者等を対象とした普及啓発活動や個別支援等を実施する。

2 実績

(1) 病棟内普及啓発活動

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
患者向け普及啓発実施回数	11	12	7
実施医療機関数	1	1	1
病院職員研修実施回数	5	8	1
実施医療機関数	3	2	1

(2) 個別支援

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
支援対象者数（実人数）	7	8	7

支援内容

精神障害当事者としての疾病体験やサービス利用体験等に基づく共感性をベースとした相談支援を精神保健福祉総合センターや区障害高齢課と連携し実施している（以下は支援例）。

- ・長期入院者の退院支援
- ・長期入院を経て退院した者の地域定着支援
- ・医療中断者への受療支援 など

(3) 各区役所・総合支所における家族教室講師

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
派遣回数	5	5	2

講話内容

以下のようなテーマで精神障害者の家族を対象に講話を行っている。

- ・当事者の体験談、リカバリーストーリー
- ・当事者の立場から伝えたいこと
- ・家族の関りで良かったこと辛かったこと
- ・家族に理解してもらいたいこと など

(4) その他の研修等講師

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
派遣回数	2	4	1

派遣した研修等名称

- ・精神保健福祉基礎講座（支援者へのメッセージ-当事者の立場から）
- ・生活保護新任現業職員基礎研修（精神障害者から）
- ・サポネットあおばの集い（精神疾患の理解）
- ・リカバリーを学ぶ&座談会（リカバリーって、何だろう？」 など

(5) その他の活動

① 当事者活動団体の 情報収集・発信	令和 2 年度にクリアリングハウス仙台等と連携し、当事者活動団体の取材を実施し、計 11 団体を令和 3 年度精神保健福祉ハンドブックに掲載した。
② 青葉区障害者自立支援 協議会	平成 30 年度～令和 2 年度に行われた精神部会の委員を務め、医療中断者の支援のあり方について検討を行った。

3 事業が「ピアサポート」に及ぼす効果や影響等

- ・長期入院者を対象とした普及啓発活動や個別支援を通じて、地域移行へ向けた希望や意欲を喚起する。
- ・地域支援者や病院職員と連携して普及啓発活動や個別支援にあたることで、協働による実践からピアサポートの意義や効果に関する理解を深め、活用を促進する。
- ・当事者活動団体に関する情報を発信することで、その存在を当事者や支援者等に広く周知され、ピアサポートへの関心を引き出したり、新たな参加者を取り込むきっかけになる。
- ・多様な対象に研修や講話を通じて、精神障害に関する正しい知識や理解を提供することにより、ピアサポートの阻害要因となり得る偏見を是正する。